

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション美沢
所在地	(〒 940 - 0856) 新潟県長岡市美沢 4 丁目 2 1 1 番地 6		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。住み慣れた地域の中で築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2020 年 8 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	(11) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】…コロナウイルス感染症により会議中止とし、評価・要望等文書照会をする。

実施予定日	西暦 2021 年 1 月 21 日	メンバー人数 (合計)	(22) 人	※自事業所職員を含む
照会人数 (内訳)	■自事業所職員 (2人) ■市町村職員 (1人) ■地域包括支援センター職員 (1人) ■地域住民の代表者 (1人) ■利用者 (1人) ■利用者の家族 (1人) ■知見を有する者 (2人) ■医療従事者 (6人) ■その他 (7人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>職員の質の向上を図り、判断能力向上の為の研修にも取り組んでいく。 研修後の評価をする仕組みを構築させて実現させる。</p>	<p>コロナ禍のため外部研修は難しいがヘルパー研修として定期的実施している。専門的技術向上に向けた研修など情報収集に心がけている。 全員参加は困難であるが研修資料等を確認している。研修ごとに評価し今後の展望を検討している。研修内容の疑問点や不十分な面などタブレットを活用し共有し合い資質向上につなげている。</p>	<p>研修後の評価を行い、資質の向上と共に職員の判断能力向上の為に努めてほしい。 コロナ禍で研修困難な状況は理解する。リモートなど研修方法を工夫し資質向上に努めてほしい。 運営推進会議の内容を情報伝達してサービス提供に反映できるように努めて欲しい。</p>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<p>課題や要望を引き出ししていく中で、訪問看護導入の説明を行い理解を深める。繰り返し継続して訪問看護の早期導入が実現するように発信していく。</p>	<p>利用者・家族の状況や変化等をモニタリング、アセスメントし課題要望の把握に努めている。 タブレットを活用して情報交換し他職種の専門性を活かしたサービス提供につなげている。 変化に気づき早期対応できるようにしている。</p>	<p>医療依存度の高い利用者の計画作成についてケアマネや関係機関と十分検討し作成してほしい。 毎日の支援を漫然と行うのではなく、変化や疑問を持ち高いアンテナをもってサービスに当たる事が重要。 早期対応はこのサービスの強みであり続けて欲しい</p>
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<p>フェニックスネットが利用出来ない事業所とも連携をとり、情報共有できる環境を確立させていく。</p>	<p>フェニックスネット以外でも電話、FAX、訪問等で早期に情報共有を図っている。毎月のモニタリングにて利用者状況を報告している。コロナ感染の影響で担当者会議の照会が多いが他機関他職種との情報提供を行っている。</p>	<p>フェニックスネット、モニタリング、担当者会議等でヘルパーの視点、判断、情報が共有できている。現状は担当者会議自体が少ないが、情報提供は計画に沿って行うと理解し易く評価しやすい。 地域のフォーマル、インフォーマルサービスの知識がないと提案もできない。</p>

	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)	地域との関わりは、サポートセンターの一員として継続していく。 サポートセンターへ足を運んでいただけるような情報発信を検討していく。	コロナ感染の影響でサポートセンターとして地域と直接的な交流を図ることが困難であったが、定期的な広報紙の発行を行い事業所の理解と情報発信をしている。	情報提供から地域の方の意見を聞き出し、ニーズ把握に努めて欲しい。 医療関係者で認知度がまだ低い事が現状。何か良い広報活動があると良い。パンフレット等を多方面に情報発信してほしい。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)		利用者を中心に医療面や他サービスとの連携を行いサービス提供していく。家族、地域を巻き込みながら地域で支える仕組みを提供していく。	フェニックスネットの活用により効率的かつ柔軟な対応を実施している。他職種との連携を図りより良いサービス提供に努めている。近隣住民への挨拶や声掛けなど行い、また独居の方には近隣の協力をお願いしたり在宅サービスの理解につなげている。	在宅生活を継続する中で「相談できる相手」がいることは利用者・家族にとって大変大きな安心につながっている。 今後も利用者・家族が安心して在宅生活を送れるように支援してほしい。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	状況に応じた研修方法(リモートを活用した研修等)を工夫・検討し、職員の質の向上及び判断能力向上に取り組んでいく。研修後の評価展望の検討が出来ている。 各種会議の在り方や内容・情報伝達を工夫し、より良いサービス提供に反映できるように取り組んでいく。	コロナ禍の中で外部研修等もリモート化が進んできているため、積極的な参加を促す。今後も研修後の評価を継続する。 推進会議、担当者会議にはサービス担当責任者以外の職員にも参加できるように取り組んでいき、より良いサービス提供へ反映させる。

Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	医療面のサポートを強みにサービス提供を進めていくうえで、ケアマネや関係機関と十分検討し計画作成をして行く。日々、援助を行う中で変化や疑問・観察など、アンテナを広げサービスを展開していく。	医療依存度が高い利用者が在宅生活を継続できるように、より専門性のある関係機関の意見を聞き計画作成に反映していく。観察力・変化及び気づきの観点の資質向上ができる研修等を検討し実施していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	地域のフォーマル、インフォーマルサービスの知識がないと提案できない。	地域のインフォーマルサービス等について調査し、ミーティング等で情報共有し在宅サービスに活かしていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	定期随時サービスについて認知度が低いところがあり、介護保険サービスとして提案できない部分がある。	定期随時サービスをより広く深く知って頂くように広報誌やパンフレット等を活用していく。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)	在宅生活を継続する中で「相談できる相手」がいることは利用者・家族にとって大変大きな安心につながっている。	受容傾聴の姿勢で援助を行うことで今後も利用者家族が安心して在宅生活を継続できるように支援していく。	

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します